

上郡町人権啓発ビデオライブラリー

上郡町教育委員会

令和5年 3月作成

【ご利用にあたって】

- 上郡町教育委員会では、人権啓発用ビデオの貸出等を行っています。
- 学校や職場、地域での学習会など、対象や目的に合わせて研修が行えるように、さまざまな視点からの啓発ビデオを用意していますので、研修・話し合いなどにご利用ください。

1. 利用案内
 - ①まず、ご希望の作品が使用できるかお電話でお問い合わせください。
 - ②啓発ビデオを取りにこられたときに、借用書を書いてください。

(問い合わせ先) 上郡町教育委員会 教育推進課 TEL 52-2912
--

2. 貸出期間 原則として、7日間以内
3. 貸出本数 原則として、3本以内
4. 返却方法 原則として、借用にこられた本人がご返却ください。
また、返却期日は厳守してください。
5. その他 万一、ビデオを紛失・破損した場合には、速やかに連絡してください。
場合によっては、弁償をしていただくこともあります。

○ビデオテープ作品紹介

番号	題名	時間 製作年	内容
V-1	渋染一揆に学ぶ (アニメーション)	17分 3年	渋染一揆を素材に、江戸時代における身分制度と厳しい差別政策、被差別部落の人々の解放への闘いを紹介します。
V-2	ハンセン病を知っていますか	22分 13年	ハンセン病の古い歴史から、現代医学で治る病気となるまでの経緯を紹介し、ハンセン病に対する正しい知識と、ハンセン病問題を克服する方法を提案します。
V-3	橋のない川	139分 5年	奈良の被差別部落を舞台にして、厳しい部落差別への義憤とその中で培われていく人間のやさしさや 尊厳を土台にして、全国水平社が創立されていく過程を描いた作品です。
V-4	街かどから	24分 12年	閑静な住宅街で起こった単車事故をきっかけに、地域社会の人間関係の希薄さが浮き彫りになります。地域社会でともに暮らす人々が、互いを思いやる豊かな人間関係を育むにはどうすればよいかを、問いかけています。
V-5	人権ショートストーリー 山本家の場合	13分 11年	身の回りの様々な人権問題を見つめ直すため、第1話「男女平等の日」、第2話「仏滅鬼門」、第3話「縁談と釣書」、第4話「親子の友情」の4つの話をショートストーリー形式で紹介します。
V-6	ま・さ・か わたしが!?	25分 13年	ますます進展する情報化の中で、どうすれば豊かな人間関係を築き、お互いの人権が尊重される社会にできるかを問いかけています。
V-7	あずに生きる	35分 13年	厳しい競争の中で忘れられがちな企業内の人権問題（障害者、女性、リストラ等）を改めて考えてもらうことによって、企業の中での社員同士の人権や企業が社員を大切にすることの重要性を訴えます。
V-8	トモダチ	31分 12年	主人公の女子大生と中国人の留学生、日本人の少年とベトナム人の少年との交流の中から、文化の多様性を知り尊重すること、そして一人の人間として様々な違いを乗り越え触れ合う事の大切さを訴えます。
V-9	一枚の絵てがみ (アニメーション)	43分 11年	祖母の同居から様々な不協和音が生じた家庭で、祖母の家出により、祖母の居場所のないことに気づくことによって、高齢者問題や女性問題について考える必要性を訴えます。
V-10	どんぐり森へ ～ひとりにひとつのたからもの～ (アニメーション)	15分 12年	どんぐり森で体験する不思議な出来事を通して、命を大切にすることを育んでいくとともに、自分も、大事な命を持っているかけがえのない存在であることを自覚してほしいと願う作品です。
V-11	いのち輝くとき	30分 13年	深刻な社会問題となっている親による子どもへの虐待について、お年寄りの暖かい思いやりと励まして若い夫婦が立ち直っていき、生きていることの素晴らしさと命の尊さを問いかけています。

V-12	うちの子に限って	29分 13年	最近では「まさかあの子が・・・」と思われるような真面目でおとなしい子どもたちの問題行動が目につきます。この作品では、子どもの将来を考えた「家族のあり方」「子育てのあり方」について考えていきます。
V-13	新しい風	30分 14年	配偶者からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）や、親から子への虐待が大きな社会問題となっています。ある一家の日常生活を通して、家庭における一人ひとりの人権の大切さを描いています。
V-14	こらっ！のおじいちゃん	27分 14年	公園で子どもたちを大声で怒鳴っている変わったおじいちゃんと子どもたち、また親との関係を通して、子どもと高齢者、地域とのふれあいを描いた心温まる作品です。
V-15	花咲く日	55分 14年	母親の病気、両親の老いへの直面、同和地区出身の恋人と次男の結婚問題。家族が同和問題に直面し、各人が人間の尊厳と差別の実態の中で、その重要性を理解し同和問題を解決していきます。
V-16	こころの交響曲 (アニメーション)	43分 13年	家庭や身近なところで起こる言葉や力による暴力の問題を取り上げ、人間の尊厳・命の尊さ・家族のあり方などを考える作品です。
V-17	同級生	30分 13年	30年前、部落差別が原因で物別れになってしまった二人の父親が、子どもたちや家族同士のふれあいのなかで、同和問題と正面から向かい合い、友情を取り戻していく姿を描いています。
V-18	元気をありがとう	53分 14年	いま、誰もが生きることに精一杯の毎日を送っています。このような社会では、差別や偏見が増幅される危険性があります。社会をよくしていくためには何が必要なのかを考える作品です。
V-19	やくそく	20分 14年	心の優しい少年と病弱な少女との心温まる交流の物語を通して、人のために尽くす事の尊さ、素晴らしさを訴える作品です。
V-20	いのちのあさがお	36分 12年	実話に基づくこの映画は、急性白血病のため7歳で亡くなった新潟県中条町の丹後光祐さんと家族の愛情の物語です。光祐さんの残した朝顔の種は、命の贈り物となって思いやりの輪を広げていきます
V-21	きいちゃん 私、生まれてきてよかった！ (アニメーション)	21分 14年	主人公・きいちゃんは体に障害があっても、前向きにひたむきに生きています。好きなことを見つけてそれを仕事にすること、懸命になってひとつのことをやり遂げること。どちらも人として生きていく原点かもしれません。
V-22	一人ひとりの心は今！	34分 15年	エセ同和行為に対して怯むことなく、一貫してき然とした態度で拒否し、また、障害者問題を社内で取り組んで行く若い社員達の姿を描く感動の人権問題啓発ドラマです。
V-23	鉢かづき姫 (アニメーション)	34分 12年	いじめと差別の中で、苦境にも負けず、力強く生きた日本の民話「鉢かづき姫」の物語は、今の社会における親子の関係と人権問題を語り合える作品です。

V-24	ぬくもりの彩	36分 15年	突然障害を持った高齢者との同居を余儀なくされた家族が、同和地区に住む青年との出会いをきっかけに、それぞれが同和地区に対する差別意識の誤りに気づき、人を思いやる心や家族のぬくもりを取り戻していきます。
V-25	ラストからはじまる	53分 15年	吃音と人間関係に悩む生徒・光一とムラの靴職人・辰造との出会いや、様々な人たちとのふれあいによって、少年たち自身が互いの違いを越え、気づき、成長していくさまを描いています。
V-26	風かよう道	35分 14年	古い因習にとらわれている主婦とその家族を通して、六曜、占い、穢れなどが差別意識を形成する土壌となっていることを提起しながら、今日的な問題であるインターネットを悪用した差別事件も絡めて展開します。
V-27	私たちの人権 子育て編	32分 16年	「子育て」は「親育ち」・・・共稼ぎ夫婦が子育てをする過程で、職場や家庭などにみられる人権にかかわる問題を取り上げ、人権意識について問題提起しています。
V-28	私たちの人権 家庭編	26分 元年	私たちの生活で最も基礎となる家庭に焦点をあて、私たちの意識やものの考え方について、いろいろな角度から問題提起をしています。
V-29	陽だまりの家 (アニメーション)	42分 16分	一人の女性とその娘が、いろいろな出会いを通して成長していく姿を描き、「自分を認めるとは」「相手を認めるとは」「生命の尊さとは」「共生とは」といった視点から人権問題を考えます。
V-30	しらんぷり (アニメーション)	21分 11年	いじめと対峙した少年の心の葛藤のドラマをリアルに描きだしており、特に、少年の心の叫びが爆発するラストシーンは胸を打ちます 親子で、クラスで、観て話し合ってください作品です。
V-31	純がくれた命	20分 10年	いじめに耐えかねて自殺を図った少年と、難病と闘う少年が病院で同室に。生きることへの全く違った考えをもつ2人の少年の交流を通して、生命の大切さを描く作品です。
V-32	こぎつねのおくりもの (アニメーション)	30分 16年	たまおか みちこ (原作者) さんの大好きなことば「なんでも最初は夢から始まるのよ・・・?!」 夢から生まれたおばあさんと三匹の子狐のあたたかいほのぼのとした楽しい童話の世界へご案内します。
V-33	めばえの朝 (アニメーション)	41分 16年	この作品は、新しい生命の誕生を控えた家族とその周りの人々とのふれあいや葛藤を通して、「相手を理解すること」、「尊重し合うこと」、そして「自分の問題として行動すること」の大切さやすばらしさを描いています。
V-34	人権に向き合うための6つの素材	27分 15年	どこにでもありそうな家族の会話をミニドラマで再現し、私たちの身の回りに起こる人権問題を提示します。問題の背景や立場の異なる人々の思いをドキュメンタリーやインタビューで伝え、人権とは何かを考えます。

V-35	ごめんねミーちゃん (アニメーション)	12分 16年	どんな生きものにも尊いのちがあること、それを大切にしなければならぬのだということを、やさしく、そして力強く訴えかけます。
V-36	ツインズ17	55分 16年	人生の岐路に立つ双子の姉妹。差別の現実から目をそらすことなく逞しく生きる姉と、広い世界に旅立って行く妹。人間が生んだ恐ろしい差別の歴史を学び、新しい時代を切り開いていく若者の姿を描いた作品です。
V-37	もう一度 あの浜辺へ	38分 15年	老いた親の介護をする家族に起きた事件を通じて、認知症や介護に関する正しい理解の必要性を訴えるとともに、高齢者の人権や家庭介護のあり方を考えます。
V-38	ラブレター	54分 15年	「人はみんな愛される資格がある」をテーマに、心に傷を持つ少女が勇気を持って書くラブレター。「ありのままの私を受け止めてください」これは、この物語を見ている人々に受け取ってもらおうためのラブレターともいえます。
V-39	壁のないまち	35分 16年	交通事故で車椅子生活となった主人公が、自分の中にあつた壁をなくし、前向きに生きていく物語。障害のある人たちがおこれた状況に気づき、どうすれば障害の有無にかかわらずだれもが元気に暮らせるユニバーサル社会を築くことができるのか考える作品です。
V-40	私の好きなまち	35分 17年	誰もが体験しうる身近な問題を取り上げながら、同和問題を今日的な視点から見つめ直し、「それぞれの違いを認め合い、共に生きる」「相手を思いやる」「夢をもって生きる」ことの大切さを私たちに訴えかけています。
V-41	仮免許 練習中	30分 16年	この作品では、息子の交通事故をきっかけに自尊感情を失った親子が、自らの「誇り」を取り戻す過程を描いています。その過程の中で考え、悩み、変容していく姿を通して人権意識を高め、生きる活力を呼び起こします。
V-42	ノーマライゼーションを考えるシリーズ 身体障害者-社会に向けて自分を発信する-	22分 16年	コンピューター技師や劇団の座長など、様々な場所で活躍する障害者取材し、ノーマライゼーションのあるべき姿を考える作品です。
V-43	ノーマライゼーションを考えるシリーズ 精神障害者-歪んだイメージを問い直す-	22分 16年	精神障害者に対するゆがんだイメージをなくすために、当事者たちが様々な行動を起こしています。精神障害の7割を越えるといわれる統合失調症に焦点を当て、精神障害者の現状を考えます。
V-44	ノーマライゼーションを考えるシリーズ 知的障害者-自立という選択-	22分 16年	グループホームに暮らす知的障害者が、仕事や結婚など、自立をめざしていくつものハードルを越えていく姿を描いています。
V-45	人権ってなあに① あなたへのメッセージ	41分 13年	一言で「人権」と言ってもその内容は実に多種多様。人種、民族、女性、子ども etc. そんな言葉では捉えにくい「人権」を各界で活躍する5人（落合恵子、吉田ルイ子、永六輔、江橋崇、おすぎ）の方々が実際の体験から分かりやすく語るメッセージ集です。

V-46	人権ってなあに② ジェンダーフリーー男女共同社会へー	25分 13年	現代社会を取り巻く女性の人権問題の根底には、ジェンダーが深く関わっています。さまざまな視点から男女共同参画社会について考えます。
V-47	人権ってなあに③ わいわいごちゃごちゃー多文化・多民族共生の街ー	34分 13年	兵庫県神戸市長田区、神奈川県川崎市を舞台に在日韓国・朝鮮人の取り組みと、共に活動する日本人の姿を紹介。「在日」の歴史も織りませ、「わいわいごちゃごちゃ」街に暮らす様々な民族の人たちが共に生きていくことの大切さを探ります。
V-48	人権ってなあに④ 被差別民が担った文化と芸能	43分 13年	全国各地の数百にのぼる被差別部落を訪れ、伝承されてきた芸能と産業技術を研究してきた沖浦和三さん。研究成果をもとに、大阪、奈良、浅草に、被差別民衆が担ってきた芸能の歴史をたどります。
V-49	人権ってなあに⑤ いっしょに歩こうー豊かな国際化社会をめざしてー	45分 13年	1980年代後半からたくさんの外国人が働く場を求め日本にやってきましたが、企業や地域社会での根深い偏見や差別という人権侵害のなかで、自分たちで声を上げ、手を結び、日本社会のなかで生きようとしている姿を紹介します。
V-50	人権ってなあに⑥ いきいき生きるー子どもの権利とエンパワメントー	35分 13年	二つのグループの子どもたちが自立に向けいきいきと活動している姿を追い、虐待やいじめ、性的搾取などの問題にも触れ、本当の意味でのエンパワメントのあり方を探ります。
V-51	人権ってなあに⑦ あなたへのメッセージ	44分 13年	各界で活躍する5人（東ちづる、川田龍平、星野昌子、中坊公平、白井貴子）の方々が実際の体験から人権について語るメッセージ集です（入門編のパート2）。
V-52	人権ってなあに⑧ 風よ雲よ伝えてよーHIV/AIDSと共に生きる	38分 13年	正しい知識、その普及や啓発を通して、根深い差別と闘い、感染者と共に歩む人々や感染者の思い、活動を紹介し、HIV/AIDSと共に生きる社会について考えます。
V-53	人権ってなあに⑨ 温もりある社会をー野宿生活者とともにー	40分 13年	野宿生活者に対する差別・偏見意識から、襲撃・暴力事件も頻発し、社会の中で新たな人権問題となっています。この作品では、彼らの現状や前向きに生きようとする姿をはじめ、彼らを仲間として支える市民の活動や行政の取り組みを紹介し、温もりのある地域社会の在り方を探ります。
V-54	人権ってなあに⑩ この街で一緒にーあなたへのメッセージー	42分 13年	視覚障害、精神障害、身体障害を持つ女性がそれぞれ積極的に自分の活動を展開している様子や、知的障害のある青年たちが酪農作業の餌やりから瓶詰め、配達までのすべてを自分たちで行っている様子を紹介し、障害のある人の社会参加のあり方を提示します。
V-55	今でも部落差別はあるのですか？ ーマイナスイメージの刷り込みー	38分 17年	絵本作家の卵である女性が、同和問題をテーマにした絵本作りを依頼され、気が進まないながらも同和問題について勉強し、多くの人と出会い、話を聞くうちに、次第に偏見（差別意識）が知らず知らずに再生産される社会の仕組みと自分の課題に気づいていきます。
V-56	旅立ちの日に (アニメーション)	40分 16年	ウェディングコーディネーターが手作りの結婚式の企画に携わる過程で、自分の心にある見えない障壁を壊し、「心のバリアフリー」を形成していく様子を描く感動作品です。

V-57	夕映えのみち	38分 18年	もし、わが子がインターネットを使って他の人の人権を侵したら、逆にわが子がその被害者になり、『いじめ』にあったら、あるいは学校や地域で同じ事件が起きたなら……。 「あなたなら、どうしますか？」と、問いかける作品です。
V-58	この空の下で (アニメーション)	42分 18年	古い住宅地に住む四人家族が住民間の偏見や壁をなくし、育児や介護など、それぞれの悩みを分かち合い、ともに生きる「まち」を創るために物語った作品です。
V-59	お助けマン参上!	30分 14年	熟年、お年寄り世代の生きがいをテーマに、ボランティアの大工仕事にやりがいと喜びを見出すお年寄り達の姿をコミカルに描いた心あたたまる作品です。
V-60	父さんが泣いた日	28分 14年	家族ぐるみの付き合いをしていた、安田家と岡本家。子どものいじめがきっかけで、仲たがひする事になってしまいました。人権を身近な問題として考える作品です。
V-61	この街で暮らしたい ー外国人の人権を考えるー	32分 14年	言葉や宗教、文化、価値観などの違いから、様々な人権問題が生じています。入居拒否の例をもとに、日本に移り住むようになった外国人への偏見を描きながら、外国人の人権について考えます。
V-62	外からみたわたしたち ー地球規模で違いを認め合い、そしてふれあいをー	27分 16年	日本に住んでいる外国の人たちは、日本の文化や習慣、そして制度に、戸惑いや違和感を抱いたり、また自分たちに向けられる視線に差別性を感じ取っているかもしれません。外国の人から見た「わたしたち」を知ることで、社会のもつ矛盾や人権問題を考えてみましょう。

○DVD作品紹介

番号	題 名	時 間 製作年	内 容
D-1	エールを贈るバス	29分 16年	心を傷つけたことへの謝罪から始まった、主人公の少女と障害のある少女との交流。姫路セントラルパークなど各所を舞台に、同じ社会の一員として認め合うことの大切さを描いています。
D-2	ハンセン病 今を生きる	49分 17年	ハンセン病であるがために、幼いころから親と別れ、強制的に隔離された国立療養所長島愛生園のハンセン病元患者の苦難の60年の歴史を描いたドキュメンタリー映像作品です。
D-3	あっ!危ない きみならどうする	27分 17年	子ども達の生命を守るために、低学年にも親しまれるお姉さんキャラクターとして春さくらが登下校・遊びの中・いろいろな危険な場所で登場し、子ども達と一緒に防犯・安全について学んでいきます。
D-4	私の好きなまち	35分 17年	誰もが体験しうる身近な問題を取り上げながら、同和問題を今日的な視点から見つめ直し、「それぞれの違いを認め合い、共に生きる」「相手を思いやる」「夢をもって生きる」ことの大切さを私たちに訴えかけています。
D-5	夕映えのみち	38分 18年	もし、わが子がインターネットを使って他の人の人権を侵したら、逆にわが子がその被害者になり、『いじめ』にあったら、あるいは学校や地域で同じ事件が起きたなら・・・。「あなたなら、どうしますか?」と、問いかける作品です。
D-6	企業と人権 構えない 隠さない 飾らない ～障害者雇用最前線～	36分 18年	特例子会社から地域の独立企業、街の洋菓子店まで、自前の知恵と工夫で障害者雇用に取り組む最新のユニーク7事例を取材。決められたから守る、義務だからやるという消極姿勢とは無縁に、障害者の隠れた「能力」豊かな「才能」に気づき、引き出すための具体策が満載です。
D-7	老いを生きる	35分 18年	認知症の高齢者をかかえる家族と、地域・行政のこころ温まるかわりから、日常生活の中で高齢者に対する思いやりの心が、態度や行動に表れるよう人権感覚を身につける作品です。
D-8	ひろがれチャンゴの響き	38分 18年	兵庫県の東はりまマダンの活動を通して、在日外国人と地域の人々の温かい交流がチャンゴの響きとともに、国境を越え広がっていく感動の作品です。
D-9	こころに咲く花	35分 19年	今、学校や地域でのいじめ、職場でのパワハラ、セクハラが人権侵害として大きな社会問題になっています。このドラマでは、いじめの構造の中で多数を占める傍観者、観衆たちが一歩踏み出して、勇気を持って声を発すれば、必ずいじめの解決につながるということを訴えかけます。

D-10	人権を行動する ーその時あなたはどうしますかー	25分 19年	暮らしの中で人権を守ることの大切さは分かっているが、それを行動に移せないことは多いのではないのでしょうか。セクハラ・個人情報・同和問題の3つのケースについて、そのとき、人権をいかに行動するかを考えます。
D-11	今日もよか天気たい	35分 19年	視覚障がいのある一人の女性“京子”を通して、周りの人たちが自分の心の中にある偏見や差別に気づいていきます。生きるとは何かを気づかせてくれる作品です。
D-12	人権入門	23分 19年	ある男性の一日を追い、その日の出来事の中で、「人権を考える10のチェックポイント」を用意し、日常の中の身近な人権を改めて考えていきます。
D-13	企業に求められる人権意識とは？	25分 18年	企業が社会の中で果たすべき責任はますます大きくなっています。企業には、単に利潤を追求するのではなく、よりよい社会を築くために努力することが求められています。この作品は、企業に求められる人権意識のあり方を、若い社員目の通してわかりやすく描き、問題提起するものです。
D-14	人権の扉をひらく	26分 16年	主人公は共働きの夫婦。お互い対等な関係でありたいというのが二人のモットーです。しかし、家庭、職場、社会でおこる様々な事例を通して、「思い込みの壁」「差別と偏見の背景」「パワーハラスメントと同調の弊害」など身近なところから人権について考えていきます。
D-15	人権と向き合う ー違いを認め合うためにー	29分 18年	「障害」「ハンセン病」「部落差別」の3つの人権課題から、人の中にある偏見や思い込み、さらに未だに残る根強い差別意識について考えます。
D-16	自閉症の子どもたち ーバリアフリーを目指してー	30分 18年	自閉症を正しく理解し、当事者とその家族がどのような支援を求めているのか、同じ地域に住む仲間としてどのような手助けができるのか学んでいきます。
D-17	めぐみ (アニメーション)	25分 20年	昭和52年、当時中学1年生だった横田めぐみさんが、学校からの帰宅途中に北朝鮮当局により拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や、懸命な救出活動の模様を描いた25分のドキュメンタリー・アニメです
D-18	本当の友達	50分 19年	群馬県前橋市の大胡小学校の映画クラブの児童が、いじめをなくすという強い気持ちをもって、子どもたち自身でシナリオを考え、撮影まで行った作品です。
D-19	親愛なる、あなたへ	21分 37分	現在、核家族化が進行し、地域社会における人々の結びつきが弱まっています。無関心、無理解という冷たい壁を破って温かい見守りと相互支援の大切さを訴える作品です。
D-20	夢のつづき (アニメーション)	40分 21年	家族の中で疎外感を抱く高齢者、認知症を患う高齢者、その介護に疲れ果てた高齢者や無気力な毎日を送る若者らが、世代の異なる者とのふれあいや、高齢者を支援するサービスの活用などで、家族のきずなを深め、生きがいを感じられる生活を送ることができるようになっていく作品です。

D-21	なくそう 子どものネット悲劇 -保護者用-	17分 17年	子どもが安全に楽しくインターネットができるように、有害なサイトやメールでのトラブル、そしてやってはいけないこと等、具体的に開設します。
D-22	なくそう 子どものネット悲劇 -生徒用-	15分 17年	子どもが安全に楽しくインターネットができるように、有害なサイトやメールでのトラブル、そしてやってはいけないこと等、具体的に開設します。
D-23	部落の歴史（中世～江戸時代） ～差別の源流を探る～	27分 19年	部落差別は江戸時代の身分制度が原因ではなく、中世から差別意識が続いてきたことがわかってきました。この作品は、中世以降なぜ部落が差別されるようになったかを検証し、差別の本質を考え現代の差別と向き合う姿勢を問います。
D-24	部落の歴史（明治～現代） ～近代化が存続させた差別～	26分 19年	解放令により制度としての部落はなくなりましたが、差別意識は解消されず、急速な近代化と資本主義の発展の中、被差別部落は持続しました。貧困や格差といった今日的な問題を、近代の部落問題ははらんでいるのです。
D-25	生きること死ぬこと	22分 18年	ホスピスで出会った少女が亡くなるまで交流し、命をテーマに歌い続ける歌手。死と向き合うホスピスの医師の思いと入院患者の願い。自宅出産のドキュメントと家族の喜びなど、命の現場をつづったドキュメント作品。
D-26	社会福祉施設等における人権 私たちの声が聴こえますか	30分 19年	この作品は、社会福祉施設等の入所者に対する身体的、心理的虐待などについて「ひとり芝居」を中心に、「専門家による分析・解説」「具体的な取組事例」の3つの要素で構成されており、大切なことは何かということをつかりやすく紹介しています。
D-27	あの空の向こうに	38分 22年	「ケータイ・ネット社会と人権」をテーマに、インターネット等の利用にあたっての人権意識・人権感覚の重要性や、人と人とのふれ合い、語り合いの大切さを訴え、こころ豊かなコミュニケーション社会を目指しています。
D-28	日常の人権Ⅰ -気づきから行動へ-	23分 21年	日常生活の中に潜む「女性の人権」「子どもの人権」「高齢者の人権」について、ドラマで人々の心にある偏見を、ドキュメンタリーで差別や偏見などで苦しむ人々の心の痛みを伝えます。
D-29	日常の人権Ⅱ -気づきから行動へ-	23分 21年	日常生活の中に潜む「外国人の人権」「障害者の人権」「部落差別」「インターネットでの人権侵害」について、さまざまな角度から考えることができる作品です。
D-30	障害のある人とのふれあいと人権 -今まで声をかけられなかった あなたへ-	23分 20年	「本当のバリアフリーは、心のバリアフリーから始まる」をテーマに、障害者が社会参加するために、自分たちに何ができるかを考えるきっかけになることを目指した作品です。
D-31	私が私らしくあるために 職場のコミュニケーションと人権	26分 21年	コミュニケーション不足から相手の立場や状況への配慮、想像力がかけたことによりバラバラになってしまった職場が、大事なプレゼンの失敗をきっかけに、一人一人が自分の課題に気づき、次第にまとまっていく様子を描いた作品です。

D-32	同和問題と人権 -あなたはどのように考えますか-	28分 20年	日本固有の人権問題で、国民的課題でもある同和問題に焦点をあて、ある家族の話し合いを通じて、国や地方公共団体等による施策やいまだ残る差別事象、偏見などわかりやすく紹介したアニメーション作品です。
D-33	An die Freude -歓喜を歌う-	80分 19年	障がいをもつ人々を中心に結成された合唱団<私たちは心で歌う・目で歌う>による東京芸術劇場でのコンサートのドキュメンタリー。練習風景、コンサートに寄せる想い、また、家族やサポーターたちの様子を丹念に追った感動作品です。
D-34	クリームパン	36分 22年	子どもへの虐待や若者の自殺などの社会問題になっている事件を通して、社会や地域の中で孤立している人々に対する正しい理解を訴えるとともに、「いのち」についてあらためて自分の問題として考えることが出来る作品です。
D-35	ボクとガク あの夏のものごたがり (アニメーション)	42分 22年	希望(のぞむ)と岳(がく)、二人の子どもと近所に住むおばあさんとの交流を描きながら、子どもの人権や地域の人権文化に目を向ける作品です。また、おばあさんの経験を通じて、私たちが決して忘れてはならない「戦争と平和」の問題についても考えます。
D-36	人権のヒント 地域編 「思い込み」から「思いやり」へ	25分 22年	街の喫茶店「カフェ・ヒューマンライツ」のママのところに、さまざまな思いをいだいた人々が集まってきます。その交流のなかから、「人権のヒント」を考え、それぞれの違いを思いやる心の大切さを理解していきます。
D-37	私の中の差別意識 部落差別問題から考える	24分 22年	部落差別問題についてドキュメンタリーを通し、差別された人々の心の痛みを伝えつつ、どうすれば差別がなくなるのかを考えるきっかけを提供し、自らの差別意識に気づき、正しい知識や判断力を持つことの大切さを伝える作品です。
D-38	もったいないばあさんと 考えよう 世界のこと	DISC 1 41分 DISC 2 19分 DISC 3 10分 21年	地球の問題と厳しい環境で暮らす世界の子どもたちの現状とそれらの問題が私たちの暮らしとどのようにつながっているかを、命の大切さを伝える「もったいない」という言葉のメッセージとともに語りかける作品です。 DISC 1 「地球でおきている10の問題」 DISC 2 「世界の10人の子どもたち」 DISC 3 真珠さんがインドを訪れた映像
D-39	アイヌモシリ アイヌ民族の誇り	25分 21年	アイヌの人たちに対する理解の促進に関する作品です。アイヌの人たちの歴史とともに、生活や文化、現在も残る差別の現状などが紹介されています。
D-40	ある日突然最愛の娘を奪われて ～犯罪がその後にもたらすもの～	41分 20年	ストーカーに娘を殺害された被害者遺族をさらに傷つけたのは周囲の人々の心無い態度や言葉などや反応でした。二次被害の苦しみをドラマで再現するとともに、実際に被害に遭った被害者支援センターの職員の方などの解説を紹介しています。

D-41	私たちにできること	23分 19年	集団暴行により、兄を亡くした友人とその母親が犯罪被害で苦しんでいるときに、自分たちに何が出来るかをドラマと犯罪被害者支援団体の関係者へのインタビューなどにより考えさせられる作品です。
D-42	友達が被害者になったら	21分 21年	交通事故で弟を亡くした中学生の心情に迫りながら、犯罪被害者を支える大切さを考えるドラマです。また、被害者支援を行っている方へのインタビューを通して、被害者が置かれた状況や支援の流れについて理解を促す作品です。
D-43	八月の二重奏	45分 22年	大学のキャンパスの喧騒の中、美保の脳裏に5年間の妹との闘病の記憶がよみがえる。自らも骨髄の提供をして妹を支えたこと。輸血用血液が足りず、県外からの血液到着を心待ちにしたこと。いつか姉妹で二重奏を奏でるために、ピアノとヴァイオリンを奏でたこと。それは生きることそのものだった。そして献血がそれを支えてくれたことを…。
D-44	桃香の自由帳	38分 23年	東日本大震災後、改めて見つめ直されている「人と人とのきずな」。この作品は、劇的な事件は描かず、どの地域でも起こりうる出来事に光をあて、日常の何気ない言動を振り返ることで、私たちが見失いつつある、人と人との寄り添い、共に生きる暖かな世界とは何かについて語りかけています。
D-45	赦し — その遙かなる道	100分 20年	残酷な殺人犯罪の犠牲者たち—残された者は、消えることのない憎悪を糧に一日一日を生き延びるため、殺人犯を赦す道を選択する。生きるとは、愛とは、そして赦すとは一体なにを意味するのか？それは本当に可能なのか。私たち現代社会に生きる者すべてに対して、究極の問いかけを突きつける感動のドキュメンタリー作品。
D-46	探梅 春、遠からじ	40分 22年	この作品では、北九州市が展開する「いのちをつなぐネットワーク」を取り上げながら、「包み込む社会」に焦点を当てています。人と人とのつながりや助け合いの根底となる人権尊重について考えていきます。
D-47	モップと箒 —大阪発障がい者雇用—	55分 23年	障がい者雇用の場は広がりつつあるといわれているが、働きたい障がい者はまだ数多く存在する。エル・チャレンジに関わった知的障がい者と支援者の姿を一年半に亘り密着取材した作品。
D-48	虎ハ眠ラズ	30分 23年	在日とハンセン病の二重の差別を受けながらも、人権運動の先頭に立ち続けた金泰九 85 歳。その苛烈な人生から我々が学ぶものとは、18歳の少女の目線で描かれた真実の歴史。
D-49	それぞれの立場それぞれのきもち 職場のダイバーシティと人権	28分 23年	一連のドラマの中で、日常の職場で起こりそうな出来事を取り上げ、年代や経験、価値観の異なるメンバーそれぞれがどのような思いを持っているかを描き、コミュニケーションの重要性やダイバーシティの考えに沿って、問題解決のヒントを示していきます。ダイバーシティの理念を学べる作品。

D-50	ほんとの空	36分 24年	高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題などの人権課題に共通するものが、私たちの誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」。この誤解や偏見に気づき、人と深く付き合うこと、他者の気持ちを我がこととして思うなど、自分に関わることとして捉え、日常の行動につなげてもらうことを目的とした作品。
D-51	いじめと戦おう！ 小学生篇 ～私たちにできること～	21分 24年	いじめはどのようにして起こり、どのようにすれば防げるかを知っておくことは、児童にとって必要なことと言えます。この作品は、鑑賞した児童が、いじめの当事者・被害者・傍聴者の立場を理解し、考えることができる教材です。
D-52	いじめと戦おう！ 中学生篇 ～もしもあの日に戻れたら～	23分 24年	いじめはどのようにして起こり、どうすれば防げるかは保護者や教員にとって大きなテーマと言えます。この作品は、鑑賞した生徒がいじめのメカニズムや対策を自分の身に置き換えて考えることができる教材です。
D-53	がんばってます！自主防災 地域の力で減災	25分 22年	自主防災組織は、阪神・淡路大震災以降、その活動が注目され全国的に増えてきたが、運営・活動が追い付かず、形だけのところが少なくない。もう一度、自主防災組織の在り方を問いながら、活動内容の充実している地域を取り上げ、その日常の活動を具に捉えて災害に強い街づくりの必要性を訴えている。
D-54	ヒーロー	34分 25年	近年、社会から孤立している人が増えてきており、孤独死などが大きな社会問題となっています。いわゆる血縁や地縁、社縁の希薄化による「無縁社会」と呼ばれる社会状況の中で、地域で起こる身近な人権問題に対し、傍観者としてではなく、主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを実感できる作品です。
D-55	あなたの偏見、わたしの差別 ～人権に気づく旅～	30分 24年	身の回りにはさまざまな人権に関する問題や課題がありますが、自身の問題として考える機会は少ないのではないのでしょうか。本作では若者4人とともにそれらの人権問題に気づき、体験し、感じるができる作品です。 ※他、特典映像 27分収録
D-56	家庭の中の人権 生まれ来る子へ	25分 25年	「家庭の中の人権」に目を向け、祖父母と孫夫婦の会話を通して、私たちの身の回りにある人権問題をクローズアップし、気づくこと、そして行動することの大切さを描いた作品です。
D-57	虹のきずな	31分 24年	差別に対する「傍観者」「無関心」という立場に焦点を当て、さまざまな問題を自分の問題として引き寄せて考えること、人と人がしっかりとコミュニケーションを取ること、お互いを一人の人として認め合うこと、自立した考えや行動を取ること、の大切さを訴える作品です。 ※他、特別編集版（絵本パート）16分収録

D-58	だれかのそばで on the other side	30分 21年	毎日が自分のことで精一杯な中学生、高校生たちの世界がひろがる4つの「出会い」を映像を通して体験し、彼らを取り巻く人たちを見つめ直すことを通じて、自分の存在意義について考えるきっかけとなる作品です。
D-59	ヒューマン博士と考えよう ～差別から人権の確立～	28分 17年	差別の歴史をひもときながら、差別された人びとの生産と労働、芸能や文化への関わりをわかりやすく解説し、私たちの歴史の中でつくられた偏見や差別の解消につなげていただくことを目的として制作された作品です。
D-60	ブタがいた教室	109分 20年	新任教師と26人の小学生が挑んだ「ブタを育て食べる」授業。卒業までの1年間、真剣に“いのち”と向き合った感動の実話を完全映画化。2008年劇場公開作品。 ※個人視聴に限る。
D-61	ぼくとママの黄色い自転車	95分 21年	父とふたりで横浜に住んでいる小学3年生の大志は、母が小豆島にいることを知り、母からもらった黄色い自転車に乗り、愛犬のアンを連れて小豆島に向かって旅に出る。母が記憶を失う病気だとは知らずに。2009年劇場公開作品。 ※個人視聴に限る。
D-62	だいじょうぶ3組	118分 24年	大ベストセラー「五体不満足」の著者である乙武洋匡が、3年間にわたる小学校教師としての実体験をもとに描いた自伝的小説を映画化。2012年劇場公開作品。 ※個人視聴に限る。他、特典ディスクあり。
D-63	あなたに伝えたいこと	36分 26年	同和問題を正面から取り上げ、この問題が決して他人事ではないこと、正しく知ることが同和問題をはじめとする様々な人権課題の解決につながることを描くとともに、インターネットの持つ危険性に対して、私たちがどのように向き合っていけばよいか問い直します。
D-64	秋桜の咲く日	34分 25年	「目に見えにくい違い」の一つである発達障害をとりあげ、発達障害のある人の生きづらさや痛みを真摯に伝えるとともに、「違い」が生み出すプラスのエネルギーを美しく群生するコスモスの花々と重ね、「ともに生きることの喜び」を伝えます。
D-65	家庭の中の人権 カラフル	31分 26年	「“人権”の問題は、“人間”の問題」。人権に対する意識の基盤は、家庭の中で育まれていきます。両親と人権の巣立ちの時を迎えた子どもたちの会話を通じて、家庭の中にある人権課題を取り上げ、一人ひとりが「人権」に対する意識と知識を高め、家庭内で話すきっかけとなる作品です。
D-66	みんな生きている	30分 26年	東日本大震災から3年。多くの人々が受けた心の傷。時間の経過とともに、被災の記憶が風化されていく中、被災地に限らず心に傷を抱えた人々、ケアする人々、すべての人々に求められる回復への問い。福島県浜通りを舞台に心の回復と再生を描いた作品です。

D-67	PTG子どもの心の回復 －豊間小学校子ども映画学校－	20分 26年	東日本大震災の被災地では、子どもの心のケア、PTG（外傷後成長）の取り組みがおこなわれています。被災地の小学校で実施された子ども映画学校。それは子どもたちに傷ついた心と向き合い、地域を見直し、明日への希望や夢を与えるものでした。いじめ、児童虐待、家庭内暴力・・・傷ついた子どもの心に何が必要か。被災地の取組を通じて学びます。
D-68	ぼくらの誇り －心の傷とどう向き合うか－	20分 26年	今、いじめ、家庭内暴力、虐待など、子どもたちの心に深い傷を残す事案が続いています。子どもたちはそれらとどう向き合い、乗り越えていけばいいのか・・・。ある被災した地域の小学校の取り組みが生んだ、子どもたちの心の回復、そして地域への誇り。その姿を通じて、同世代の子どもたちがいじめ、虐待といった問題に必要な「生きる力」について語り合います。
D-69	人権は小さな気づきから	34分	人権は心の問題であり、命の問題です。一人ひとりが人権に対する意識を少しずつ持つ事で、救える命もあります。この作品は、身近な人権問題に気づき、普通の生活の中で人権問題を意識させるために「こんな時、あなたはどうしますか？」と身近な人権問題8項目を題材に気づきを促します。
D-70	imagination イマジネーション 想う つながる 一歩ふみだす	34分	ラジオ局で番組パーソナリティを務めるサヤカの元には、今夜もリスナーからの相談の便りが届く。現代社会に悩む様々な人々が番組を軸に心を通わせ、明日へとつながる一歩を見つけていくドラマ教材。
D-71	ハンセン病とは？ ハンセン病を正しく理解するために	30分 25年	ハンセン病問題に対する正しい知識の普及啓発のために兵庫県が作成したDVDです。
D-72	同和問題 ～過去からの証言、未来への提言～	61分 26年	我が国固有の人権問題である同和問題に焦点を当て、国や地方公共団体、企業等の人権教育・啓発担当職員が身に付けておくべき同和問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を中心に分かりやすく簡潔にまとめた啓発映像です。
	同和問題 未来に向けて	19分 26年	我が国固有の人権問題である同和問題に焦点を当てた啓発映像です。同和問題について、ドラマを中心に、関係者の証言や解説等を交えて分かりやすく簡潔にまとめています。
D-73	忘れてはならない夏がある	33分 26年	もう二度と、こんなつらい思いをすることがないように……。広島・長崎で被爆し、現在は尼崎で暮らす二人の原子爆弾被爆者の語りを中心にイラストや資料映像を交えながら、忘れてはならない夏の記憶を辿っています。
D-74	あなたが あなたらしく生きるために	30分 26年	誰もがありのまま受け入れられ自分らしく生きたいと望んでいます。そんな社会を実現させるために、まず相手を正しく理解し、偏見や差別をなくす必要があります。この作品は、性的マイノリティについて人権の視点で正しく理解を深めることをねらいとしています。

D-75	未来の拓く5つの扉 ～全国中学生人権作文コンテスト 入賞作品朗読集～	46分 26年	全国中学生人権作文コンテストでは、次代を担う中学生が、身の回りで起きたいろいろな出来事や自分の体験などから、人権について考えています。この作品は、入賞作品の中から5編の作文を朗読して、アニメーションやイラストで紹介しています。
D-76	七夕の願い ～明石空襲～	①21分 ②13分 27年	明石で起こった空襲による被災の状況を中心に、今も市内に残る戦争の傷跡や空襲の様子を後世に伝えるとともに、空襲でなくなった方々を慰霊する碑等を、当時の写真や文献資料等を使いながら紹介しています。
D-77	ここから歩き始める	34分 27年	「認知症を共に生きる」をテーマに、超高齢社会のあり方を人の幸せと尊厳を守るという人権の視点から捉えています。認知症の親をもつ主人公とその家族の中で繰り広げられる介護をめぐる葛藤ときずなの紡ぎなおしを描くことで、高齢者が人間として誇りを持って生きていく上で大切なことについて、家族や地域の視点を通して考えるきっかけとなる作品です。
D-78	人権啓発ワークショップ事例集 「ワークショップをやってみよう」 参加型の人権教育	18分 27年	ワークショップ型の人権啓発は、人権文化を基盤とした社会作りを目指してきた欧州などで発展した方法で、人権意識と責任感のある市民社会の形成に有効であるとされています。本作には、ワークショップで活躍できる参加者向けの視聴覚教材が収録されています。
D-79	ハンセン病問題 ※啓発担当者向け	56分 27年	ハンセン病問題に焦点を当て、啓発に携わる職員等に身に付けておくべきハンセン病問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説を中心にまとめられています。また、一般市民を対象とした啓発現場においても使用できる有効なツールとなる映像も併せて制作し、次世代へ伝承しようとするものです。
	家族で考えるハンセン病 ※一般向け	20分 27年	
D-80	親と教師のための 自閉症の人が見ている世界 ～自閉症の人を正しく理解する～	第1巻 63分 第2巻 39分 第3巻 85分 27年	第1巻 自閉症の人の学習スタイル 「視覚的に考える」「独特の注意の向け方」など、自閉症の人の「学習スタイル」をわかりやすく解説しています。 第2巻 自閉症の人が好むこと 特性への理解や配慮が、自閉症の人の教育や支援する人に求められています。 第3巻 13人のエピソード 自閉症のご本人やご家族の発言には、深い意味と重みがあります。本作は「自閉症の人が見ている世界」を見事に語っています。

D-81	国際連合創設70周年記念 すべての人々の幸せを願って ～国際的視点から考える人権～	35分 27年	世界人権宣言及び国際人権諸条約が自分たちの身近にある人権課題とどのように関わっているかを国際的な視点から考えるために、4つの人権課題とそれぞれに関連する条約を資料映像や写真、事例の再現ドラマなどで紹介しています。
D-82	聲の形	30分 27年	原作の物語は、現代の子どものリアルな表情を描きつつ、「いじめ」や「障がい者との共生」などの難しいテーマを自然に考える事のできる優れた物語です。本作は原作の物語を基本に、教材としてのテーマを付加したドラマ形式の学習教材です。
D-83	多様性を尊重した職場のコミュニケーションと人権I	25分 27年	多様化する職場や人間関係の中で、ちょっとしたコミュニケーションの不和によって様々なハラスメントの芽は発生しています。どの企業でもあり得そうなショートドラマとその振り返りを通じて、多様性を尊重したコミュニケーションとは何かを視聴者に考えさせるドラマ教材です。
D-84	この子に家庭の幸せを！ 里親制度を考える	21分 27年	日本では、家庭で暮らすことができない子どもが約36,000人で、その約86%が乳児院や養護施設で集団生活を送っています。「里親制度への周知が進んでいないこと」などから里親の家庭で暮らしているのは4,000人余りに過ぎません。このDVDは、「養育里親になって乳児院から子どもを迎え入れるまで」の過程をドラマ形式で描きます。同時に、里親制度とはどんなものなのか、専門家の解説もまじえ、実際の里親に体験談を聞き、わかりやすく解説しています。
D-85	ココロ屋	30分 26年	「ココロ」とは何でしょう？これは、私たちにとって永遠の謎であり、自分の「ココロ」を問い続けることが、私たちの人生のテーマです。「ココロ屋」はこの謎に向かい合うためのヒントとなる優れた児童文学を原作にしたアニメーションです。自分の心を大切にし、相手の心も大切にするという、人権教育の基本的な考え方が盛り込まれています。
D-86	光射す空へ	32分 27年	同和対策審議会答申が出されて50年、同和地区の生活環境は大きく改善しましたが、差別は形を変えて根強く残っています。また、十分に認識されていない人権課題として、性同一性障害や性的指向における少数派の人々、若年性認知症と診断された人々に対する誤解や偏見があります。この映画は大学生たちの悩みと学びを通して、「正しい知識と理解」「多様性の受容と尊重」の大切さが描かれ、誰もが人権を尊重され、自分らしく生きていける社会について考える作品です。

D-87	風の匂い	34分 28年	子どもの頃は共に遊び、共に学ぶ「大切な友だち」だった二人。しかし、大人となって再会した二人を隔てる健常者と障害者という壁。その壁を作っているのは誰なのか。二人の成長と職場での人間模様を通して、社会的な課題でもある「合理的配慮」についても触れ、見る方々が自分自身の問題として考えるきっかけとなる作品です。
D-88	外国人と人権 違いを認め、共に生きる	33分 28年	本DVDは、外国人に関する人権問題をドラマや解説で明らかにし、多様性を認め、人が人を大切にする人権尊重の社会をつくりあげるために何ができるかを考えるものです。外国人に対する偏見や差別をなくし、皆が住みよい社会を築くために私たちにどのようなことが問われているかを学びます。
D-89	インターネットと人権 加害者にも、被害者にもならないために	30分 28年	近年特にネットいじめや子どもたちをターゲットにした犯罪が大きな社会問題となっています。また、インターネットに関する知識や意識が十分でない中学生や高校生は、被害者になるだけでなく、意図せず加害者にもなることも少なくありません。本DVDは主に中高生やその保護者、教職員を対象に、インターネットを利用する上での危険性や、安全な利用法・対策について、わかりやすくまとめられています。
D-90	わたしたちが伝えたい、大切なこと -アニメで見る全国中学生 人権作文コンテスト入賞作品-	31分 28年	本DVDは「全国中学生人権作文コンテスト」入賞作品を原作とした3つのアニメーションで構成されています。どの作品も日常生活の中で「人権」について理解を深めていった気付きのプロセスが描かれています。
D-91	あした咲く	36分 29年	生き方の異なる姉妹が、それぞれの立場ゆえの悩みや葛藤を抱え、姉妹での対立や、父との対話、そして、地域の人々とのふれあいを通して、別の視点や価値観に気づきます。自分で自分の生き方を選択し、すべての人が「自分の花」を生き生きと咲かせることのできる多様性を尊重する社会。その実現をめざすきっかけとなる作品です。
D-92	コール&レスポンス -ハラスメント-	24分 29年	「コール&レスポンス」とは、ジャズのセッションでプレイヤー同士が呼応しあうこと、またコンサート会場で、プレイヤーと観客が呼応することを言います。本DVDでは、職場におけるコミュニケーションの重要性を「コール&レスポンス」というキーワードに仮託して考えていく作品です。
D-93	わかかカフェへようこそ ~ココロまじわるヨリドコロ~	35分 28年	あなたには「心のよりどころ」がありますか？忙しい日常に追われて誰かと「心を交流する」ことをおろそかにしていませんか？本DVDは小さなカフェに訪れる人たちの身近な出来事を通じ、「心の交流」について考える作品です。 収録テーマ：「インターネット」、「高齢者」、「外国人」

D-94	白紙のページ	29分 19年	私たちは食肉文化を享受しているのに、食肉処理の過程は白紙のものとしています。本DVDは屠畜の現場を余すことなく記録し、食肉を支えている人々の思いを伝えます。「食」、それは最も身近な人権問題です。
D-95	企業と人権 ～職場からつくる人権尊重社会～	24分 29年	近年、長時間労働による過労死、セクハラやパワハラなどのハラスメント、さらには様々な差別に関わる問題などが社会の注目を集めています。こうした「人権問題」への対応は、時として企業の価値に大きくかかわります。本DVDは、企業向けに実施する研修会等で活用しやすいように、ドラマや取材、解説も交えて構成されています。
D-96	君が、いるから	33分 30年	この作品は、子ども、若者の人権がテーマです。母親からの心理的虐待に悩む若者「奏」が主人公です。コンビニエンスストアを舞台とした「ほんの小さな冒険」をきっかけに少しずつ変わっていきます。子どもや若者が社会的に成長し自立していくために、人と人が支えあいながら希望の種をまいていく、そんな社会の実現をめざす内容となっています。
D-97	忍たま乱太郎の がんばるしかないきシリーズ	30分 11年	「忍たま乱太郎」が活躍する教材アニメーション。「特別の教科 道徳」の教材としてご活用いただけるとともに、小学校低学年向けの人権啓発、行事などで上映する幼児向けアニメーションとしても幅広くご利用いただけます。全3タイトルが1本のDVDに収められています。「指導のポイント」(PDF資料)つき。
D-98	いのちに寄り添う ～ターミナル ケアと人権～	35分 29年	もしも、あなたの身近な人が、重い病になったとしたら？このビデオでは二組の「いのちに寄り添う」人々に密着取材をしています。二人に一人がガンになる時代、病気や死と向き合う覚悟を決めること、正しい知識を身につけることは、自分や自分の大切な人の「いのちの尊厳」を守ることであります。現在に生きる全ての人々が学ぶべき命の教材です。
D-99	多様性を尊重した職場のコミュニケーションと人権Ⅱ 個に向き合い、伝えあう	25分 27年	外国人社員や障がいのある社員の増加等、あらゆる場面で職場の多様性が進む現代社会。個人が、相手の多様性(個)に目を向け、それを尊重するコミュニケーションをとることが必要となっています。企業の多様化が原因で発生する人権課題とその解決のヒントについて分かりやすく描くドラマ教材です。
D-100	サラーマット ～あなたの言葉で～	36分 R1年	「SNS時代における外国人の人権」をテーマに、主人公が新しく職場に来た外国人との対立や交流を通して新たな視点に気づいていくストーリーとなっています。また、SNSを傷つけるための道具ではなく、人の心をつないでいくために利用する様子を描きます。異なる文化の人たちと、多文化共生社会の実現をめざす人権啓発教材です。

D-101	知りたいあなたのこと ～外見からはわからない 障害・病気を抱える人～	21分 R1年	外見からはわからない障害や病気を抱えながら日常生活を送っている人は多くいます。一見すると健康そうに見えるので、障害や病気が周囲に理解されず、辛い思いをすることもあるといいます。この作品では、2人の難病患者さんと、てんかんと発達障害をもつ大学生を取材しました。
D-102	お互いの本当が伝わる時 ～障害者～	24分 30年	障害のある人をどう手助けすればいいのかわからないという声をよく耳にします。今作では、障害のある人が、どんな場面で困っているのか、どんな「バリア」があるのかなどの具体例を挙げ、それをどう取り除いていけばいいのか、また障害のある人から発信することの重要性も示しています。
D-103	いわたくんちのおばあちゃん	20分 21年	広島原爆にまつわる実話を基にした絵本『いわたくんちのおばあちゃん』をアニメ化した、平和教育のためのビデオです。文部科学省特別選定。このアニメの主人公は小学生です。友達のおばあちゃんの話聞くうちに、原爆や戦争のことを自分の問題ととらえ、平和への決意をしていきます。文部科学省特別選定。
D-104	誰もがその人らしく ～LGBT～	20分 29年	LGBTの人たちに対する社会の偏見はまだ強く、存在していてもなかなか見えない、その存在を見だしにくいのが現状です。この作品は、主人公の周りにいたけれども見えなかったLGBTの人たちが見えてくることで見方もひろがり、誰もが生きやすい社会をつくることを考えるきっかけになるストーリーとなっています。
D-105	企業活動に人権的視点を ～CSRで会社が変わる・社会が変わる～	104分 26年	このビデオは、CSR(企業の社会的責任)や人権課題に関する企業の取組を啓発推進することを目的に、各地で開催した『企業の社会的責任と人権』セミナーにおいて、企業に発表いただいた実践事例をわかり易くまとめたものです。専門家による各事例の取組のポイントやCSRと人権課題に関する解説も収録しています。
D-106	企業活動に人権的視点を② ～会社や地域の課題を解決するために～	97分 30年	国際的な人権意識の高まりなど、企業が果たすべき社会的責任が問われる時代のなか、企業は顧客、取引先、地域社会、従業員など様々な人々と関わりながら活動をしています。このビデオでは、どのように取り組むことが企業内外の人、地域や環境のためにもなるのか、先進的な5つの取組事例を紹介しています。
D-107	カンパニユラの夢	36分 R2年	「超高齢化社会とひきこもり(8050問題)」をテーマに二つの家族の視点で進行するストーリーです。急速に高齢化が進む今、8050問題は誰にでも起こりうることと認識し、地域の人々が、ひきこもりなどの悩みを共有し偏見をなくすとともに、互いに助け合うことで地域共生社会の実現をめざす人権啓発ドラマとなっています。

D-108	今そこにいる人と、しっかり出会う ～同和問題～	24分 R2年	この作品は、同和問題について理解を深めると同時に、同和問題をモチーフに、人と人がしっかり出会い、差別とどう向き合っていくかについてのヒントになる作品となっています。ドラマ形式で描かれていますので、それぞれの登場人物の気持ちに寄り添って視聴することができます。
D-109	「部落の心を伝えたい」ビデオシリーズ ネット差別を許すな！ ～川口泰司～	28分 R1年	今、ネット空間を主に部落差別が展開されています。この作品では、ネット差別の現実を解説し、何が問題で、どう解決するのかについての道筋を示します。無知・無理解・無関心な人ほど危ないネット社会の危険性と構造を解き明かし、行政、企業、個人でのネット対策を提起しています。
D-110	LGBT シリーズ これが私の生きる道 ～仲間しゅん～	30分 R1年	仲間しゅん、男性の戸籍をもちながら女性弁護士としてテレビやラジオ、さらに年間100回を超える講演で全国を飛び回っています。自身の体験や弁護士経験を裏付けに偏見や差別の不合理をスカッとぶった切ります。「皆違って、皆いい」の本質を詳細に解説する内容となっています。
D-111	LGBT シリーズ パパは女子高生だった！ ～前田 良～	28分 R1年	女性から男性へ性別転換し、結婚、その後二人の子をもつ父親となった前田良。血縁関係のない長男を法律上の子である「嫡出子」として認めさせる訴えを起こし、一審、二審では敗訴しましたが、最高裁で勝訴、日本で初めて戸籍上で実子と認めさせました。妻の絵を使った処女作「パパは女子高生だった」も出している。
D-112	家庭からふりかえる人権 話せてよかった	27分 R1年	日常の中の思い込みによって生じる問題を描き、相互理解のためのコミュニケーションによって、その問題と向き合う内容となっています。自分の中にある思い込みに気づき、自分も相手も尊重する人間関係を築くために、職場や家庭内で「人権」について話し合うきっかけとなる物語です。
D-113	くうとしの ～あなたがそばにいてだけで～	12分 R2年	認知症の犬・しのと、介護猫・くうの、感動の実話をもとにした道徳・人権教育アニメーションです。もし、あなたの大切な人が認知症になってしまったら、あなたはその人に何をしてくれることができるのでしょうか。年も離れていて、性別も違う犬と猫の関係性を通して、自然と考える事ができる、心がほっこりとする物語です。
D-114	シェアしてみたらわかったこと	46分 R1年	上京して、期待を胸に入居したシェアハウス。そこに暮らしている個性豊かな住人たちと時間、空間、思いをシェアして初めて分かったことを描いています。収録テーマは、外国人に関する人権、性自認や性的指向に関する人権、外から見えにくい障害のある人の人権、災害時の人権となっています。

D-115	「違い」を「力」にするために ～職場のコミュニケーションの ヒント～	26分 R1年	職場では、グローバル化や少子高齢化が進んだことで、より多様な人材が活躍する時代になっています。お互いの「違い」を理解するという段階から、「違い」をプラスにして、新しい価値に転換する時代になっています。そのために、どんなコミュニケーションのあり方が必要なのか、事例をとりあげながら考えます。
D-116	ハラスメントを生まないコミュニ ケーション グレーゾーン事例から考える	25分 30年	一見、コミュニケーションが良好に見える職場にも、ハラスメントの落とし穴はひそんでいます。ハラスメントを生まないために、どのようなことを意識すれば良いのでしょうか。様々な事例をもとに、それぞれの立場の考え方や、気づきのポイントを示し、職場でのコミュニケーションのあり方を考えていく内容となっています。
D-117	ハンセン病問題を知る ～元患者と家族の思い～	35分 30年	隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化し、国立ハンセン病資料館学芸員による解説とともに収録しています。ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるためのDVDです。
D-118	夕焼け	35分 R3年	ケアは他人事ではなく、だれもが当事者になり得ます。この作品では「ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～」をテーマに、お互いを気にかけて、人と人がつながっていくことが、ケアラーとその家族が抱える問題解決の糸口になる様子を描きます。年齢属性を問わず、共に助け合える社会の実現をめざす内容となっています。
D-119	私たち一人ひとりができること ～当事者意識をもって考えるコ ロナ差別～	26分 R3年	新型コロナウイルス感染症に対する不安から、感染した方への誹謗・中傷や、特定の職業につく人々への不当な差別などの、いわゆる「コロナ差別」が問題となっています。本作品は、「コロナ差別」の特徴と、差別や偏見がなぜ生まれるのか、そしてどのように向き合っていけば良いのかを学べる、ドラマ形式の人権啓発教材です。
D-120	許すな「えせ同和行為」 ～あなたの会社を不当な要求か ら守ろう～	36分 R2年	「えせ同和行為」とは、同和問題を口実に、企業・個人などに不当な利益や義務のないことを求める行為です。同和問題に関する誤認識を植え付け、偏見や差別を助長する要因となります。この作品では、「えせ同和行為をはじめとする不当要求行為」の主な事例をドラマ形式で具体的に紹介し、その心構えと対策を紹介しています。
D-121	障害のある人と人権 誰もが住みよい社会をつくるた めに	32分 30年	障害のある人もない人も誰もが住みよいユニバーサル社会をつくるためにはどうしたら良いのでしょうか。この作品は、障害のある人が直面する人権問題やその問題を解決するための取組などを具体的に紹介し、「障害のある人と人権」について考えてもらうことを目的としています。

D-122	君が笑っていた ～ソーシャルディスタンスの罨 ～	23分 R3年	新型コロナウイルス感染は、感染者、その家族・親族や病院関係者への差別を生みました。単身世帯などすでに経済的に逼迫していた人々に加え、学生・一般世帯の人々をも厳しい生活状況へ追い込んでいます。本作品は、感染症で姿を変える社会の現実を通じ、差別のないあるべき未来とは何かを語り合うための教育映画です。
D-123	知りたいあなたのこと 視覚障がい者の生活・気持ち	21分 R3年	視覚に障がいを持つ方々は、いろんな場面で危険や不安を感じながら生活を送っています。この作品では、3人の全盲の方と1人の弱視の方に取材しました。一体どんな場面で困っているのか、どんな配慮が求められているのか。今作は、視覚に障がいを持つ方々の話を通じて、私たちにできる配慮を共に考えてゆく内容です。
D-124	ズッコケ三人組のいじめをなくす作戦	15分 R2年	この作品では、ズッコケ三人組のクラスの中でいじめが起こり、その問題を三人組のメンバーが、どう考え、どのように話し合っ解決へと導いていくか、そのストーリーを展開しながら、いじめは絶対してはいけないという強い意識を持ってもらい、思いやりの心を育むことが大切であることを訴えていく内容です。
D-125	フクロウ人形の秘密	30分 R2年	この作品は、法務省が提唱する社会を明るくする運動の一環として全国の小・中学生を対象に実施されている作文コンテストの中で法務大臣賞を受賞した小学生の作文に再犯防止の問題を加え、脚色したものです。犯罪防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない社会を築くことを目指す内容です。
D-126	「やさしく」の意味 ～おばあちゃんは認知症だった ～	33分 R1年	この作品は、福井県敦賀市で開催された小中学生の認知症サポーター作文コンテストで、最優秀作品に選ばれた小学生の作文を脚色し、ドラマ形式の教育映画にしたものです。全国の認知症患者、その家族、そして彼らを取り巻く地域社会。一人一人が安心して暮らしていくためにできる工夫とは何かを示唆していくものです。
D-127	バースディ	37分 R4年	LGBT 等性的少数者に対して、社会の理解が進まず、差別や偏見、配慮に欠けた対応などによる精神的苦痛や生活上の困難など様々な問題があり、深刻な人権問題になっています。多様な性について理解を深めるなかで、適切な態度や行動につながる人権感覚を磨くことをねらいとしています。

D-128	<p>スマホは情報モラルが大切① ～ネットいじめをしない！ SNS での出会いに気をつけよう！ ～</p>	<p>25分 R3年</p>	<p>多くの中学生・高校生が、スマホを使って SNS を利用しています。SNS は他人とコミュニケーションをとるのに大変便利で、上手に使えば人生を豊かにし、社会を良い方向に変える力を持っています。反面、正しく使用しないと相手を傷つけたり、自分の身に危害が及ぶこともあります。SNS を利用するには、情報モラルを身につけ、よく考えた上でメッセージや写真や動画を投稿することが何よりも大切なのです。本作品では「ネットいじめ」「SNS での出会い」の2つのテーマを取り上げ、それぞれドラマ編と解説編で構成。視聴した生徒が、ドラマの中の出來事を自分だったらどうするかと考え、情報モラルが育成されることを狙いとします。</p>
D-129	<p>性の多様性と LGBTQ+ ～誰もが自分らしく生きるために～</p>	<p>28分 R4年</p>	<p>「性のあり方」はとても多様で、すべての人々に関りがああるものです。本作品は、「性のあり方」についての基礎知識をわかりやすく解説しながら、典型的でないといわれる性のあり方の人たちへのインタビューを通して、性には様々な形があることや、性的マイノリティを取り巻く実状についても伝えます。性のあり方について理解を深めることで、多様性を尊重した誰もが過ごしやすい社会について考えていくことができる教材です。</p>
D-130	<p>今企業に求められる 「ビジネスと人権」への対応</p>	<p>ロング 36分 ショート 14分 R4年</p>	<p>「ビジネスと人権に関する調査研究」報告書に基づき、企業が「ビジネスと人権」に関する取組を進めるに当たって、参考となる情報をドラマや CG、ナビゲーターによる解説などでわかりやすく紹介する。</p>